

壁装研究会定期総会を3月18日東大で開催

壁装研究会は3月18日午後1時より、東京大学ダイワユビキタス学術研究館で平成27年度定期総会を開催し、総会に続けて午後2時30分より、同会場でテーマ「建設産業における担い手の確保・育成について」と題する国交省の長福知宏労働資材対策室長の講演会を開催した。

【定期総会】

定期総会は、定刻、事務局高橋氏の司会で開会が告げられ、高橋氏が正会員32社の過半数の出席が得られているので、総会は成立していることを報告した後、前田会長の挨拶に移った。

前田会長は要旨次のような挨拶を行った。

「前中村会長が退任されるのに伴い、会長を仰せつかった。この期に、会の執行体制を施工・流通・製造の各業態が協力する方式に変更した。」「事業では不織布壁紙の研究を進め、接着剤メーカーと協同して、自動糊付機で付けられる糊の開発も行った。この研究は一応の成果を得たので、日本壁装協会に研究資料を提供した。

また、DVD「壁張りの技法」も完成させ、昨年の「リクルート編」と合わせて、若年者の募集や後進教育の大切な資料として活用を目指している。」「新年度計画では、DVDの普及、壁紙の普及と技術の研鑽、高品質壁紙の開発・施工方法の研究等に尽力する。施工店の健全経営化を図る事業も推進する。」

● 総会審議事項

総会の審議では、事業報告、決算案、監査報告、新年度事業計画、予算案等が執行部報告・提案どおり承認・可決された。また、役員改選・及び会則の変更についても提案どおり可決された。

【講演会】

長福知宏労働資材対策室長(国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課)の講演は、「建設産業における担い手の確保・育成について」と題する印刷物が、出席者に配布され、この印刷物の順序に従って、若者や大学生の現況、建設産業の状況、建設業の働き手の諸問題、外国人労働者受け入れの状態や問題、技能労働者の経験が蓄積されるシステム等が説明された。

壁装新聞(第433号)より引用